

野鳥紹介



5・6月の早朝は、にいつ丘陵に野鳥の囀りが溢れます。にいつ丘陵に生息するオオタカやジコなどの希少種に注目しています。

本間 隆平さん
新潟県野鳥愛護会顧問



キビタキ

ヒタキ科



オオルリ (大瑠璃)

ヒタキ科



サンコウチョウ (三光鳥)

カササギヒタキ科



コルリ (小瑠璃)

ツグミ科

【大きさ】全長約14cm。スズメより少し小さい。
【季節】夏鳥。春、4月下旬から5月上旬に日本に帰って来て、10月初旬までにいつ丘陵の森林で生活します。
【色彩】雄は、眉と喉から腹部・腰が美しい黄色。雌は全身が薄い褐色。
【鳴き声】美しい声で、ピー・ヒ・ビョ・ポロ・リーを繰り返して囀ります。
【習性】にいつ丘陵では数が多い。よく茂った広葉樹の林を好み、姿はなかなか見られませんが、双眼鏡でよく探すとその美しい姿を見付けることが出来ます。
【その他】にいつ丘陵を代表する歌姫。

【大きさ】全長約16cm。スズメより少し大きい。
【季節】夏鳥。春、4月下旬から5月上旬に日本に帰って来て、10月初旬までにいつ丘陵の森林で生活する。
【色彩】雄は頭部から背・腰・尾の上面まで美しい瑠璃色。雌は全体が薄い褐色。
【鳴き声】雄はピー・リリーと美しい声で囀ります。
【習性】沢筋を好み、高い木の上に止まって大きな声で美しく囀り、双眼鏡や望遠鏡で美しい姿を見ることが出来ます。
【その他】数も多く、キビタキと共にいつ丘陵を代表する種類です。 ※沢筋=谷、溜ったところ

【大きさ】全長 雄45cm(尾含む)、雌18cm。スズメより一回り大きい。
【季節】夏鳥。5月中旬に帰ってきて10月初旬までにいつ丘陵のスギ林で生活する。
【色彩・形態】雄の尾の長さは30cmもあり、目の回りはコバルトブルー、背面は黒紫色で美しい。
【鳴き声】月・日・星・ホイホイと聞こえる複雑な声で囀るため、サンコウチョウ(三光鳥)の名前がつけました。
【その他】スギ林の多いにいつ丘陵を代表する種類で、その声を聞くために訪れる人がいます。新潟県準絶滅危惧種です。

【大きさ】全長約14cm。スズメより少し小さい。
【季節】夏鳥。春、4月下旬にいつ丘陵に渡ってきて5月中旬まで留まります。
【色彩】雄は頭・背が美しい青色で、下の面は白い。雌は全身が薄い褐色。
【鳴き声】チ・チ・チと前奏を入れ、勢いよくチルチルチル…と美しく囀ります。
【習性】にいつ丘陵には4月下旬から5月中旬まで留まり、夏はさらに山奥の森林に移動します。
【その他】茂みの中で生活し、なかなか姿を見ることが出来ませんが、初夏のいつ丘陵を代表する種類です。



クロツグミ (黒鶉)

ツグミ科



シジュウカラ (四十雀)

シジュウカラ科



オオタカ (大鷹)

タカ科

【大きさ】全長約22cm。スズメの2倍くらい。
【季節】4月中旬にいつ丘陵に渡ってきて、10月に南へ渡る夏鳥。
【色彩】雄は胸・腹部が白く、その他は黒い。雌は黒い部分が褐色。
【鳴き声】キョ・キョ・キョロロン・キョロロンと複雑で美しい大きな声で囀る。
【習性】にいつ丘陵には程よい間隔で生息し、5月中はその美しい声が響き渡ります。

【大きさ】全長約15cm。スズメより少し小さい。
【季節】にいつ丘陵に一年中生息します。
【色彩】頭が黒く、喉から腹の中央を黒い線がネクタイのように走る。白いほおが目立つ。
【鳴き声】ツーツー・ジュク・ジュクと鳴き、ツピ・ツピ・ツピと囀ります。
【習性】林の中を元気に動き回り、秋から冬にかけて群れを作って生活します。
【その他】巣箱を架けるとよく利用します。

【大きさ】全長50cm。カラスと同じくらい。
【季節】一年中にいつ丘陵で生活します。
【色彩】頭や背面は暗青灰色、下の面は白く細かい横縞がある。
【鳴き声】ほとんど鳴かないが、警戒するとカッ・カッ・カッと鳴く。
【習性】雌雄で林の中で生活し、秋から冬は河川・湖沼などに出て、ハトやカモ類を探って生活します。
【その他】新潟県絶滅危惧II類に指定されている希少種。

昆虫紹介



にいつ丘陵の多様な環境から、比較的多くの種が見られます。

丸山 滋さん
越佐昆虫同好会会員



モンキアゲハ

アゲハチョウ科



ギフチョウ

アゲハチョウ科

かつて南方系蝶といわれ、新潟県内では少ない種でした。最近では各地で見られるようになり、にいつ丘陵では特に多いようです。初夏、アザミの花が咲く頃から春型が発生し、以降夏型(7~8月)、稀に秋に羽化*が見られることがあります。カラスサンショウが食樹*です。

*羽化=成虫になること
*食樹・食草=チョウが幼虫の時にエサとする葉の種類

春を告げる蝶として知られています。年1回4月上旬に発生し、スミレ、カタクリ、桜の花等で吸蜜*します。食草はカンアオイです。

*吸蜜=蜜を吸うこと



アカガシ (赤ガシ)

ブナ科



ソヨゴ

ブナ科



ツリフネノウ

ツリフネソウ科 (釣船草)

日本海側では新潟県が北限になっている常緑*性の高木*、暖かい地方の植物です。にいつ丘陵では、ほぼ全域に点々と生えています。伸びだしたばかりの枝に、褐色*の柔らかな毛を密生しますが、まもなく落ちます。実は年を越して2年越しに成熟します。名前の赤ガシは、材*の色に基づいているとのこと。

日本海側では新潟県が北限になっている常緑*性の小高木*。にいつ丘陵では暖かい地方の植物が多く生えています。花は6月に咲きますが、白くて小さいので、注意しないと見られません。秋には、基部*に長い柄*をつけて赤い果実が熟します。葉が硬くて、風にゆれてザワザワと音をたてるほど。名前は、風にそよぐことに由来するといえます。

秋、茎の先に紅紫色の花が、垂れ下がってつきます。にいつ丘陵でも沢地*によく生えています。また、花の黄色のキツリフネも見られます。細い紡錘*状の果実が垂れ下がり、成熟時に指先で触れると裂開*しますので、見つけたら触れてみてください。



オオヒカゲ

ジャノメチョウ科



ミドリシジミ

シジミチョウ科



ミドリヒョウモン

タテハチョウ科



アオバセセリ

セセリチョウ科

湿地で生育するスゲ類が食草です。大型のジャノメチョウで、県内各地で見られます。飛び方はクックリですが、茂みに入ってしまうため、一般に見ることは少ないです。9~10月の産卵期に入ると食草の罅りに多く集まります。

ハンノ木等湿地に多い木が食樹です。オスの羽根表面はグリーン、メスは黒色で、性により異なります。年1回6月中旬に発生します。

ヒョウモンチョウの仲間では普通に見られ、6月中旬より発生しますが、夏に入ると仮眠し一旦姿を消します。9月以降各種の草花に集り吸蜜*します。年1回発生し、スミレ類が食草です。

初夏5月下旬に発生、アザミ等の花に集ります。大型の美しいセセリですが、飛び方が速く、観察が難しい蝶です。8月には2化*が出現します。食樹はアワブキです。

*2化=年2回目の発生

植物紹介



にいつ丘陵の多様な環境には、暖かい地方の植物や日本海側の植物などが見られます。現在、にいつ丘陵の小須戸地区に分布している植物の調査を進めています。

石澤 進さん
積雪地域植物研究所長



ユキバタツバキ

ツバキ科 (雪端椿)



コシノチャルメルソウ

ユキノシタ科

新潟県内では、内陸にユキツバキが、海岸近くにヤブツバキが分布していますが、にいつ丘陵の金津地区には、両種の中間種のユキバタツバキが主に生育しています。おしべの基部*が短く筒状になっていることが一つの特徴です。にいつ丘陵では、田家付近にヤブツバキが分布しています。

名にコシノとついているように、全国でも雪国の越後に主に分布し、日本海側の固有種*です。一本の花茎に20個以上の花がつけます。一枚の花弁*が小さくてわかりにくいですが、切れ込んで魚の骨のようになっています。名前の由来は、果実の開いた形を、ラッパに似た中国楽器のチャルメラにたとえたといえます。

にいつ丘陵の 里山文化・自然調査

高さによる木の格付け

※高 木(10m以上)幹をまっすぐに立て森林の上層に枝を張る。
※小高木(5~10m)幹を立て森林の中層に枝を張る。
※低 木(5m以下)根際から複数の枝を森林の下層に立てる。